

## 「水の恵みを活かすために」

私は水辺の景色が大好きだ。祖父の故郷の高知県四万十町には、「緑と水の絶景」がある。この景色を見るたびに、とても幸せな気分になれる。

しかし、美しい景色が広がる海岸地域には津波避難タワーが点在し、それが視界に入ると一瞬にして緊張が走る。

その一方で、私が住んでいる奈良県北部の大和平野では、水道水や農業用水は、南部にある吉野川から遙々届けられているが、大和平野は降水量が少なく、大きな河川がないという地理的な要因から恒常的な水不足に、そして大雨が降ると何度も水害に悩まされてきた歴史がある。

私達にとって、水は生活に不可欠な命の源であるが、地震や大雨の時に災害を引き起こす原因でもある。水は恵みと災害の両面を持

香芝市立香芝東中学校 二年

松岡 あかり

っているのだ。身近にありながら普段は意識することが少ない水について家族と話し合いを考察した。

かつては自然の水循環が引き起こす災害を減少させた上で、水を安定供給させることを目標としていた。しだいに生活の豊かさを追求したため、水質汚濁、地盤沈下や気候変動など、様々な問題が起きている。太古から繰り返されてきた水の循環。その水の通り道である河川、湖や地下水から私たちは「水の恵み」をもらっている。健全な水循環の構築には、森林の偉大な力が必要だ。自然の保水、洪水緩和や水の浄化など、「緑のダム」の機能をもっと活用すべきである。森林保全は、水源保全や温暖化対策にもつながるのだから。そして、食料生産に大量の水が使用されている。例えば、ハンバーガー一個を作るため

に約千リットルもの水が必要なのである。食料は水、資源、労働の結集だ。水資源を考え、るうえで、日々大量廃棄されている食品を私達が意識して減少させることも重要である。また、自然の水循環が引き起こす災害に対し、被害を最小限にしなければならぬ。近年では地球温暖化が進んでいる。これが台風の巨大化やゲリラ豪雨の原因となつて災害が頻発しているのだ。したがつて、ダムなどによる治水の重要性が高まつている。それに加え、東南海、南海や首都直下型の大地震発生が現実味を帯びてきたことから、これまで以上に対策が必要となつてきた。想定外の災害に対し、私たちには水の備蓄や避難経路の確認など、自身を守る準備や近所の人たちと共に助け合うための行動なども必要である。そして、安全でおいしい水を届けてくれる水道が危機的状況だ。最近、漏水などの心配なニュースをよく耳にする。全国の上下水道の多くでは、財政状況がきびしいため、古くて地震に弱い設備や管を更新できない。人口減少や節水などにより収入が減少傾向にあつて、料金の値上げが困難であるためだ。その

状況で、工事を行うために必要な技術者も不足している。奈良県では上水道の事業者が集まり、事業の効率化を目指した広域化が検討されている。わが国の人口は将来的に減少することが確かだから、コストを減らして効率的な水づくりが必要となつてくる訳だ。しかし、広域化は事業者によつて有利や不利があつて、検討が進展しないことがあるらしい。短期的な損得よりも、ふかんな考え方が必要なのだと思う。そして、水道は私達の共有財産であり、経営にも参加しているという考えを持つて関わつていくことが重要だ。「水の恵みを活かす」には、今、私達ひとりひとりが水への関心を持ち、少しでも行動を起こすことだ。小さな行動が集まれば、水の恵みと水辺の美しい景色を後世に引き継ぐための大きな力につながる。多くの人々が関わり、苦労して届けてくれた水の恵みを私は感謝し、無駄なく利用していかうと思う。